第１学年２組　　音楽科学習指導案

平成２８年１０月２８日（金）
江津中学校音楽室
授業者　山本　英史

１．題　　材　　My Melody　～　日本の音階を使って旋律をつくろう　～

２．題材の目標

音階や言葉の抑揚に関心をもち，日本民謡音階による旋律を知覚し，それによって生み出される特質や雰囲気を感受する活動を通して，自己の持っているイメージと音楽を形づくっている要素を関わらせながら，言葉の抑揚や音階の特徴を生かして旋律を創作し，表現する能力を育てる。

３．題材設定の理由

（１）題材について

平成２０年改訂の中学校学習指導要領解説には，「創作活動は，音楽をつくる楽しさを体験させる」と示されており，第１学年の創作の活動では「〔共通事項〕との関連を図りながら，言葉や音階などの特徴を感じ取り表現を工夫して簡単な旋律をつくる能力，音素材の特徴を感じ取り反復，変化，対照などの構成を工夫しながら音楽をつくる能力を育てていくことが指導のねらい」となっている。

「My Melody」では，日本民謡音階を使い，旋律の創作を行う。日本民謡音階を使用するため，限定進行音などの和声のルールに大きく縛られることはなく，比較的自由度が高く，生徒も楽しんでつくることができる。生徒は歌詞の内容などを手がかりとして，思いや意図を持ち，自己のイメージと表現したいイメージを〔共通事項〕と関わらせながら，音を音楽へと構成することができる題材である。

本題材では，万葉集の中から柿本人麻呂の和歌を取り扱う。生徒たちの生活する石見を詠んだ和歌であり，多くの生徒たちは小学校でのふるさと学習などの様々な学習の場で親しんできている。その言葉の抑揚や日本民謡音階と音楽のイメージとのつながりを知覚・感受する活動をとおして，旋律をつくって表現する能力を育てることをねらいとしている。親しみのある和歌を素材に，言葉の抑揚を考え，日本民謡音階の雰囲気を感じ取って旋律をつくる学習を通して創作に対しての関心や意欲を高めることができると考える。

（２）生徒について

…＜個人情報保護のため省略＞…

（３）指導にあたって

中学生になって初めての創作活動であるため，生徒の発想を引き出していくことができるよう，音楽的な約束を設定していきたい。日本民謡音階の５つの音を使って旋律づくりの学習を進める。音と音のつながりや音の高さ，言葉の抑揚が表現にどのようにかかわっていくのか，学習の中でていねいに確認していく。生徒たちがよく耳にしている「ソーラン節」「赤とんぼ」を使い，音楽を形づくっている要素や，要素同士の関係について，知覚・感受を深めていきたいと考えている。

１時間目はウォーミングアップとして，レミソラドの５音の中から音を選び，１拍分（８分音符２つ）の音のつながりをつくる活動から始める。次に，４分の４拍子，２小節分の旋律をつくる。先行する２小節の旋律とのつながりを考えながら創作する。ワークシートの記譜は，選んだ音に丸をつける表し方とし，音のつながりが視覚的にもとらえやすくするように支援する。また，キーボードを使って，自分が選んだ音のつながりを実際に音で確認できるようにする。グループ内で発表し合い，お互いの作品を共有する。

２時間目からは，万葉集の石見相聞歌から，「石見のや高角山の木の際より　わがふる袖を妹みつらむか」を用いて旋律づくりを行う。和歌を朗読したり，旋律のリズムを手で打ったりする活動を取り入れ，言葉の抑揚やリズムを知覚・感受するようにしたい。日本民謡音階を使った旋律作りにおいては，和歌を分担し４人グループで旋律をつくっていくため，工夫の手立てとして，前後の音と音のつながりを考えることや，和歌の持っている言葉の抑揚を生かすことについて，参考例を示していきたい。

また，考えた旋律を試すことができるようにキーボードや鍵盤ハーモニカを用意し，自分の作品を音で確認できるようにしていきたい。お互いのグループの作品を共有する際，どのような考えで旋律をつくったのかを伝えたり，お互いにアドバイスしたりする。その場面においても，生徒の創作の工夫を音で確認できるように支援していきたい。

終末では，グループごとに作品を発表し，お互いにそのよさやお互いに感じ取ったことや感想を意見交換するとともに，思いや意図をもって表現活動したことを価値づけ，教師からのフィードバックができるよう留意し支援していきたい。

（４）道徳との関連　　Ｃ－（１６）「郷土の伝統と文化の尊重，郷土を愛する態度」

４．学習指導要領とのかかわり

（１）本題材で指導する事項

Ａ表現（３）創作	
○	ア　言葉や音階などの特徴を感じ取り，表現を工夫して簡単な旋律をつくること。
	イ　表現したいイメージをもち，音素材の特徴を感じ取り，反復，変化，対照などの構成や全体のまとまりを工夫しながら音楽をつくること。

（２）取り扱う主な〔共通事項〕・・・リズム，旋律

ア	音色	／
	リズム	言葉の抑揚を生かしたリズム
	速度	／
	旋律	日本民謡音階をつかった音と音のつながりを生かした旋律
	テクスチュア	／
	強弱	／
	形式	／
	構成	／
イ	用語や記号	／

５．　教材　「My Melody」　（中学生の音楽１，Ｐ．４８）

万葉集・石見相聞歌「石見のや高角山の木の際より　わがふる袖を妹みつらむか」柿本人麻呂

６．評価規準

①領域・分野と評価の観点との関連

	ア）音楽への関心・意欲・態度	イ）音楽表現の創意工夫	ウ）音楽表現の技能	エ）鑑賞の能力
Ａ．　歌　唱				
Ａ．　器　楽				
Ａ．　創　作	○	○	○	
Ｂ．　鑑　賞				

②題材の評価規準

	ア）音楽への関心・意欲・態度	イ）音楽表現の創意工夫	ウ）音楽表現の技能
題材の評価規準	①　日本民謡音階の特徴に関心をもち，音楽表現を工夫して簡単な旋律をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。 ②　言葉の抑揚やリズムに関心をもち，それらを生かして音楽表現を工夫して簡単な旋律をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。	①　言葉の抑揚を生かしたリズム，日本民謡音階の特徴を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，どのように旋律をつくるかについて思いや意図を持っている。 ②　知覚・感受したことをもとにして，日本民謡音階の特徴を感じ取って，５つの音で構成する旋律を工夫し，どのように旋律をつくるかについて思いや意図を持っている。	①　日本民謡音階の特徴や言葉の抑揚，リズムを生かした音楽表現をするために必要な音のつなぎ合わせ方，記譜の仕方などの技能を身につけて簡単な旋律をつくっている。

７．　指導計画（全４時間）

時	ねらい	○学習内容	評価	評価方法
1	日本民謡音階の特徴を感じ取り，それらを生かして表現を工夫して簡単な旋律をつくる学習に主体的に取り組むことができるようにする。	○１拍分の音を選んで，旋律をつくる。 ○４分の４拍子・４小節の旋律をつくる課題に取り組む。 ○教師がつくった前半２小節に続く，後半２小節をつくる。 ○リズムを手拍子で打ったり，歌ったりして，音階の特徴やリズムを確認する。 ○４小節を続けて演奏する。 ○学習の振り返りをする。	ア①	○生徒観察 ○演奏聴取 ○ワークシート記入
2	言葉の抑揚やリズム，音のつながり方を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，日本民謡音階の特徴を感じ取って音楽表現を工夫することができるようにする。	○和歌について，観光協会や地元の愛好家の方が作成した資料や講演資料，和歌の読み上げを鑑賞し，和歌の味わいや表現について知る。 ○万葉集より柿本人麻呂作「石見のや　高角山の木の際より　わがふる袖を　妹みつらむか」について，日本民謡音階をつかって旋律をつくる。 ○「ソーラン節」「赤とんぼ」を参考に，言葉の抑揚がメロディーに生かされていることを知る。 ○グループで相談して，分担を決める。言葉の抑揚からイメージをふくらませて，自分の担当の旋律をつくる。鍵盤ハーモニカやキーボードで音を確認しながら旋律をつくる。 ○学習の振り返りをする。	ア② イ①	○生徒観察 ○ワークシート記入 ○生徒観察 ○演奏聴取 ○ワークシート記入
3（本時）	知覚・感受したことをもとにして，日本民謡音階の特徴を感じ取って，５つの音で構成する旋律を工夫し，どのように旋律をつくるかについて思いや意図を持って音楽表現を工夫することができるようにする。	○前時の学習内容を確認する。 ○友達が作っている旋律を聴いて，感じたことを伝えたり，アドバイスをしたりする。 ○意見交換をふまえて表現の工夫をする。 ○４人の旋律をつないで演奏する。 ○学習の振り返りをする。	イ②	○生徒観察 ○演奏聴取 ○ワークシート記入
4	言葉の抑揚やリズムを知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，表現を工夫して簡単な旋律をつくることができるようにする。	○前時の学習内容を確認する。 ○グループごとに歌唱で発表をする。 ○発表の際はどのような思いを持って旋律をつくったか紹介する。聴き手は感じ取ったことや気づいたことを伝える。 ○学習の振り返りをする。	ウ①	○生徒観察 ○演奏聴取 ○ワークシート記入

８．　本時の学習（３／４時）

（１）本時のねらい

知覚・感受したことをもとにして，日本民謡音階の特徴を感じ取って，５つの音で構成する旋律を工夫し，どのように旋律をつくるかについて思いや意図を持って音楽表現を工夫することができるようにする。

（２）本時の展開

	時間	形態	生徒の活動	教師の支援（○）と評価（★）
導入	４	一斉	１．教科書の「ソーラン節」を歌唱する。	○日本民謡音階の雰囲気を感じながら歌うよう声がけする。
	３	グループ	２．人麻呂の和歌を全体で朗唱する。旋律のリズムを手拍子で，４人がつなげてたたき，確認する。	○前時の活動内容を思い出すことができるように声がけして，必要ならばもう一度朗読 CD を聞く。 ○課題の指示の内容が理解できているかどうか，活動を観察し，必要ならば説明を加えていく。
展開	１０ １０	個人 ↓ グループ	３．ひとりひとり，鍵盤ハーモニカを使って音を確認しながら，自分のパートの音をワークシートに書き込む。 ・ワークシートに工夫したこと（わたし）を記入する。 ４．グループ内で他の３人の楽譜を書き込みあって楽譜をつなぐ。それを演奏する。（鍵盤ハーモニカ１名，歌唱３名）	○鍵盤ハーモニカが準備できない生徒にはキーボードを準備しておく。 ○音を選ぶ時，はじめは友達に教えたり，教えてもらったりせず，できるだけ独力でやってみるよう声がけする。 ○工夫したことについて，言葉の抑揚という観点から，書くように声がけする。 ○記譜で困っている生徒がいたら，机間支援する。
	１５ １０		５．全体を演奏したのち，つなぎ目などがうまくいっているか吟味し，班内で修正する。 ６．友達がつくった旋律を聴く。（中間発表） ・つくる上で工夫した点について紹介する。 ・友達が作っている旋律を聴いて，感じたことを伝えたり，アドバイスをしたりする。 ・ワークシートに工夫したこと（全体）を記入する。	○できたものを吟味し，いろいろ試して完成できるように声がけする。 ○発表する班は教師が選び声がけする。 ○教師は作品についてフィードバックをし，良い点をピックアップした感想を生徒に返す。 ★知覚・感受したことをもとにして，より具体的な思いや意図を持って音楽表現を工夫することができたか。（評価規準・イ②）演奏聴取とワークシート
終末	３	一斉	７．ワークシートに工夫したこと（全体）を記入する。	○今日の感想を述べ，自分や友達がつくった旋律から気づいたことを記入するよう指示する。 ・次回の授業の予告をする。

（３）本時の評価

評　　価	十分満足できると判断される生徒の具体例	おおむね満足と判断される生徒の具体例	支援を必要とする生徒への指導の手立て
音楽表現の創意工夫	・日本民謡音階や民謡らしい表現の特徴ついて考え，試行錯誤しながら，前後のつながりや全体の姿も意識し吟味しながら，和歌の内容や抑揚にふさわしい旋律をつくっている。 『旋律がとなりあう箇所をつくっている友達と，旋律のつなぎがどうなったら全体がよくなるかなどについて話し合い，音を決めている。』	・日本民謡音階や民謡らしい表現の特徴について考えながら，和歌の内容や抑揚にふさわしい旋律をつくっている。 『袖を振ることを表現するのに，同じ音程の反復を使って表現している。』	→どのように音を選んでも間違いにはならないことを伝え，「まずは思い切って音を選ぶことから始めよう」など声がけをする。 →「言葉の抑揚に合った音の動き方を考えてみよう」などヒントとなる言葉を投げかける。

（４）協議の視点

○５音を使って簡単な旋律をつくる活動について，教師の支援は適切であったか。